

めぐみイエス・キリスト教会

2021年8月22日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第571号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌340「救い主イエスと」 p. 540

【交読文】 No.10詩篇第31篇 p. 886

【賛美Ⅱ】 新聖歌248「人生の海の嵐に」 p. 382

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.8「神様の愛の言葉」

【聖書朗読】 使徒の働き11章1節～18節(新約p. 256上段)

【礼拝説教】 《第一回教会会議への予兆》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.「ここにいる六人の兄弟たち」とは？

※使徒の働き10章23節・44節～46節「カイサリアにおいて」(新約p.254)

10:23 それでペテロは彼らを迎え入れて泊ませた。翌日、ペテロは立って彼らと一緒に出かけた。ヤッファの兄弟たちも数人同行した。

10:44 ペテロがなおもこれらのことを話し続けていると、み言葉聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。

10:45 割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたことに驚いた。

10:46 彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。

●ポイント2.「ヨハネは水でバプテスマを授けたが～」とは？

※使徒の働き1章4節～5節「主イエスが昇天される直前に」(新約p.232)

1:4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、私から聞いた父の約束を待ちなさい。

1:5 ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」

●ポイント3. 「三つのパンのたとえ」から学ぶことは？

※ルカの福音書11章5節～11節「友だちのしつこさのゆえ」(新約p.376)

11:5 また、イエスはこう言われた。「あなたがたのうちの誰かに友だちがいて、その人の所に真夜中に行き、次のように言ったとします。『友よ、パンを三つ貸してくれないか。

11:6 友人が旅の途中、私の所に来たのだが、出してやるものがないのだ。』

11:7 すると、その友だちは家の中からこう答えるでしょう。『面倒をかけないでほしい。もう戸を閉めてしまったし、子どもたちも私と一緒に床に入っている。起きて、何かをあげることはできない。』

11:8 あなたがたに言います。この人は、友だちだからというだけでは、起きて何かをあげることはしないでしょう。しかし、友だちのしつこさのゆえなら起き上がり、必要なものを何でもあげるでしょう。

11:9 ですから、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。

11:10 誰でも、求める者は手に入れ、探す者は見出し、たたく者には開かれます。

11:11 あなたがたの中で、子どもが魚を求めているのに、魚の代わりに蛇を与えるような父親がいるでしょうか。

11:12 卵を求めているのに、サソリを与えるような父親がいるでしょうか。

11:13 ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えて下さいます。」

◎先週のメッセージの概要【異邦人の扉が開かれた時】

《ペテロは、コルネリウスと、集まっていた人々に語り始めました。「これで私は、はっきり分かりました。神はえこひいきをする方ではなく、どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。このイエス・キリストはすべての人の主です。」と。この最初の言葉が、そこにいた人々の魂を貫いたのです。それだからこそ、ペテロの説教を聞いたすべての人々に聖霊が下られたのです。

この光景を目撃した、ヤッファからペテロと共に同行した兄弟たちは、驚きました。なぜなら、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたからです。

彼らこそ、あの五旬節にエルサレムいた人々であり、聖霊が降られた場面を目撃した人々なのです。その場に集っていたすべてのローマ人が異言を語り、神様を賛美するのを、ペテロと兄弟たちは聞いたのです。

私は彼らがヘブル語あるいはアラム語で異言を語ったのではないかと考えます。なぜなら、前回とは真逆で、ペテロと同行していた兄弟たちは、コルネリウスたちが語った言葉とその意味が認識できたからです。「この人たちが水でバプテスマを受けるのを、誰も妨げることは出来ません。私たちと同じように聖霊を受けたのですから。」と、ペテロは、コルネリウスたちに、イエス・キリストの名によるバプテスマを授けます。

それからコルネリウスは、ペテロに数日間滞在してもらうことを願い出ます。その理由は、主イエスの復活の証人としてのペテロの証しと、主イエスの教えを聞く為でした。また主イエスが、ペテロが異邦人たちと食事を共にすることを、実践させる為でもあったのです。「取って食べなさい」と。この時から、ペテロは好んで、異邦人と食事を共にすることになります。そしてペテロは、禁止されていた「豚肉料理」が大好物になったのです。

主イエスは、ペテロを通して、「異邦人の救いの扉」を開いて下さいました。その初穂が、ローマ百人隊長コルネリウスです。そしてその扉のカギは、異邦人の使徒であるパウロに受け継がれて行くことになるのです。》

◎お知らせ

※次回第五主日礼拝は、平常通り8月29日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、8月25日(水)各家庭において行ないます。